様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２７ 年　 ６ 月 １９ 日現在

機関番号：１２６１４
研究種目：基盤研究(B)
研究期間：2011～2014
課題番号：２３３２０１０４

研究課題名（和文）研究成果の日本語による受信発信の支援を目指したニーズ調査とリソース開発

研究課題名（英文）Needs Analysis for Supporting Academic Writing and Reading in Japanese

研究代表者
大島　弥生（OSHIMA, YAYOI）

東京海洋大学・海洋科学技術研究科・教授

研究者番号：９０２９３０９２

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　9,900,000円

研究成果の概要（和文）：国内外の日本語学習者および母語話者の大学生・大学院生，その指導者の学術的受信発信技能向上の支援方法充実のために以下を行った：人文科学・社会科学・工学の9分野270編の日本語学術論文の構造の分析；人文・社会科学系論文における引用を解釈に活用する談話展開の分析；学術語彙習得過程を調査するテストの開発と母語話者・非母語話者への実施；海外の日本語教員・国内の留学生等へのインビューによるニーズ調査。同時に、パネルディスカッションを通じて問題を分析・共有し，アカデミック・ジャパニーズ教育の中核的意義は広く洗練された視野を獲得し学術的追求の意義を認識する得難い機会を与えることであることを確認した。

研究成果の概要（英文）：Towards gaining a comprehensive and concrete view of the tasks for those who were to assist the learning of academic writing/reading in Japanese, we conducted the following: the discourse structures of academic articles in different disciplines (270 articles in humanities, social science and engineering) were classified into representative types; the manners of exploiting quotation in the literature-analysis type of papers in humanities and social sciences were investigated; a quiz was developed to probe the process of acquiring academic vocabulary, and was applied both to native and non-native speakers of Japanese; demands of instructors and international students were studied through interviews. Also, several panel sessions were held to reveal that the core merit of learning academic Japanese was that it provides the learners with one of the very few opportunities to acquire a comprehensive and refined perspective and find the pleasure of pursuing an academic interest.

研究分野：日本語教育

キーワード：アカデミック・ジャパニーズ　アカデミック・ライティング　国際研究者交流　談話分析　論文作成支援　引用表現　解釈表現

１．研究開始当初の背景

日本語教師にとって，レポート・論文の構造型のヴァリエーションの全体像の把握は，必須のものであるにもかかわらず，IMRAD モデル（Swales1990）のほかは,「序論」,「結論」などの分析に限られており，対象分野も限定的であった。その成果を国内外での参加型研修の提案や，教育手法の発信につなげることは，学術や情報を受信発信する言語としての日本語のプレゼンスを高め，日本語による研究コミュニティを充実させることに寄与するものと考えられた。

２．研究の目的

本研究では，以下の目的□～□の達成を目指し，研究を行った。

(1)目的Ⅰ．レポート・論文作成支援を目的としたコーパス（論文およびレポート）の拡充とレポート・論文の構造分析

(2)目的Ⅱ．国内外における日本語を研究の受信発信に用いる層のニーズに関する質的調査の実施

(3)目的Ⅲ．日本語学術文献の書き手・読み手・教師支援のための教材や教育手法のリソース開発と，ワークショップを中心とした国内外における参加型研修の実施，支援ネットワークの構築

３．研究の方法

(1)目的Ⅰ．レポート・論文作成支援を目的としたコーパス（論文およびレポート）の拡充とレポート・論文の構造分析においては，おもに，学術論文の構成要素の分析，引用から解釈に至る構造の分析，話しことばを書きことばに置き換えるクイズの実施等を行った。

(2)目的Ⅱ．国内外における日本語を研究の受信発信に用いる層のニーズに関する質的調査については，半構造化インタビューを行い，グラウンデッド・セオリー・アプローチや SCAT 分析等を通じて考察を加えた。

(3)目的Ⅲ．日本語学術文献の書き手・読み手・教師支援のための教材や教育手法のリソース開発については，上述目的Ⅰの成果をもとに，アカデミック・ライティングとくに論文作成支援の手法を支援者に伝えるためのワークショップによる参加型研修を設計し，中国・ロシア等において実施した。

４．研究成果

(1)目的 I については，おもに下記のような成果を公表した。

①人文科学・社会科学・工学の 9 分野 14 学会誌計 270 編の日本語学術論文の構造分析を行い，論文の中間章の構造における「実験／調査型」「資料分析型」「理論型」「複合型」の 4 類型を抽出し，分野による出現頻度の違いについて明らかにした。

②人文・社会科学系論文における引用から解釈への談話展開の構成要素の分析を行い，「資料分析型論文」において「中立的引用文」「解釈的引用文」「引用解釈的叙述文」「解釈文」の 4 種が独自の機能を果たし，論理展開パターンを構成していることを明らかにした。

③N1 と N2 の書き言葉表現習得に関する調査を行い，大学での学年の経過につれ正答率が上昇し，レポートを書く体験と専門分野の文献との接触によって習得が促進されることを指摘した。

(2)目的 II については，海外の日本語教員，留学生，卒業生等に対するインタビューを実施し，海外日本語教師において留学時の論文執筆経験が帰国後の論文執筆指導に与える影響について指摘したほか，海外日本語教師（中国・ロシア）からのアカデミック・ジャパニーズ教育への支援に関するニーズの存在等について確認した。

(3)目的 III については，ネットワーク構築のため，パネルディスカッションを通じた問題の分析と共有，意見交換，ワークショップ型の研修を行ってきた。また，各種の対象者に対する，受信発信能力を高める実践について報告を行い，指導者に対する情報共有を図ってきた。さらに，国内外の実践状況と担当者の認識をもとに，アカデミック・ジャパニーズ教育の中核的意義として，学術的追究を行う中で広く洗練された視野の獲得を促す言語技能を養成することの重要性を指摘した。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）＊研究協力者によるものを含む

〔雑誌論文〕（計６件）

1. 山本富美子・二通信子：“論文の引用・解釈構造―人文・社会科学系論文指導のための基礎研究―”日本語教育　160. 94-109（2015）査読有
2. 山路奈保子・因京子・藤木裕行：”日本人大学生の学部後半における文章作成技能獲得の様相－工学系専攻の大学院生による作文自己訂正から－”専門日本語教育研究 16. 45－52.（2014）　査読有
3. 佐藤勢紀子・大島弥生・二通信子・山本富美子・因京子・山路奈保子: "学術論文の構造型とその分布―人文科学・社会科学・工学 270 論文を対象に―" 日本語教育 154. 85-99 (2013) 査読有
4. 因京子・陳俊森・李吉鎔・マリーナ・カリュジノワ・佐藤勢紀子: "アカデミック・ジャパニーズ教育の中核的意義 ” 専門日本語教育研究　15. 35-40(2013) 査読有
5. 山路奈保子・因京子・藤木裕行: ”日本人大学生の書き言葉習得―初年次と 3 年

次における調査結果の比較から－” 専門日本語教育研究 15. 47-52(2013) 査読有
6. 清水まさ子・トンプソン美恵子・張瑜珊:”留学時の論文執筆経験が帰国後の論文執筆指導に与える影響 :インタビューの質的分析から”留学生教育 18. 91-99. (2013) 査読有

〔学会発表〕(計 19 件)
1. アプドゥハン恭子: ”日本で学んだ工学系研究者の帰国後の日本語使用”, アカデミックジャパニーズ研究会(2015.0207),東京海洋大学
2. 山本富美子・二通信子・大島弥生:”論理展開に関わる解釈文の分析 ―人文・社会科学系資料分析型論文指導のための基礎的研究―”日本語教育学会春季大会.(2014.0601)創価大学
3. アプドゥハン恭子: “日本で学んだ工学系研究者に対する帰国後調査―日本語獲得の意義について―”,2014 年日本語教育国際研究大会, (2014.0711)シドニー工科大学
4. 山本富美子・二通信子・大島弥生・佐藤勢紀子:”引用から解釈に至る引用文の多様性 ―人文・社会科学系資料分析型論文指導のための基礎的研究―”第 16 回専門日本語教育学会研究討論会. (2014.0301)富山大学
5. 山路奈保子・因京子・藤木裕行:”卒業論文作成が論文スキーマ形成におよぼす効果―日本人大学院生による作文の自己訂正の観察から―” 第 16 回専門日本語教育学会研究討論会. (2014.0301)富山大学
6. 大島弥生:”中国の大学におけるアカデミック・ジャパニーズ養成―A 大学の中国人日本語教師へのインタビューをもとに―” 第 32 回アカデミック・ジャパニーズ・グループ研究会.(2013.0208) 東京海洋大学
7. 二通信子・大島弥生・山本富美子・佐藤勢紀子: "人文・社会科学系資料分析型論文の原資料解釈部分における談話の展開" 第 15 回専門日本語教育学会研究討論会.(2013.0302) 長崎大学
8. 山路奈保子・因京子・アプドゥハン恭子: "「英語コース」所属研究留学生の研究室適応と日本語使用状況"第15回 専門日本語教育学会研究討論会. (2013.0302) 長崎大学
9. 因京子・陳俊森・李吉鎔・マリーナ・カリュジノワ・佐藤勢紀子: "アカデミック・ジャパニーズ教育の意義－日本語による研究の受信発信を通じて身につく力は何か－" 2012 年日本語教育国際研究大会 (ICJLE2012) パネル・セッション. (2012.0819) 名古屋大学
10. 大島弥生: "日本事情科目における新聞・雑誌・書籍記事についてのポスター発表を通した情報の受信発信活動の試み" 2012 年日本語教育国際研究大会 (ICJLE2012) ポスター・セッション. (2012.0818) 名古屋大学
11. 清水まさ子・トンプソン(平野)美恵子・張瑜珊: "日本語ノンネイティブ教師は自身の論文執筆経験と論文指導をどのように関連づけているのか-修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチによる視点提示型研究から-" 2012 年日本語教育国際研究大会 (ICJLE2012) (2012.0818) ポスター・セッション. 名古屋大学
12. 張瑜珊: "協働で先行文献との対話の仕方一考" 2012 年日本語教育国際研究大会 (ICJLE2012) 口頭発表. (2012.0819) 名古屋大学
13. 李セロン・山路奈保子: "日本語パブリックスピーキング入門としての『ビブリオバトル』導入の試み" 2012 年日本語教育国際研究大会 (ICJLE2012) ポスター・セッション. (2012.0818) 名古屋大学
14. 山路奈保子・因京子・アプドゥハン恭子・徐燕・黄英哲: "学術的活動における日本語指導の実態と支援ニーズに関する質的調査―大学院留学生・帰国留学生と専門分野教員を対象に―" 2012 年日本語教育国際研究大会 (ICJLE2012) ポスター・セッション. (2012.0818) 名古屋大学
15. 山路奈保子・因京子・アプドゥハン恭子: "工学分野の大学院留学生の日本語ニーズ―インタビュー調査と試用教材への評価から―" 2012 年度日本語教育学会秋季大会. (2012.1014)北海学園大学(札幌)
16. 山路奈保子・因京子・佐藤勢紀子: "日本人学部生の書き言葉習得-学年による違い、留学生との比較-" 第 14 回専門日本語教育学会研究討論会. (2012.0303). 一橋大学(東京)
17. アプドゥハン恭子: "工学系学部留学生の日本語学習プロセスの分析" 第 14 回専門日本語教育学会研究討論会. (2012.0303). 一橋大学(東京)
18. 李セロン・須藤秀紹・山路奈保子: "外国語教育への書評の導入がその効果に与える影響" 第 39 回知能システムシンポジウム. (2012.0315). 千葉大学(千葉)
19. 因京子: "母語話者と非母語話者の発話解釈の差異:認識と推論" 第13回東アジア日本語・日本文化 FORUM. (2012.0210). 仁川大学校、大韓民国(招待講演)

〔図書〕(計 1 件)
1. 村岡貴子・因京子・仁科喜久子: "論文作成のための文章力向上プログラム" 大阪大学出版会. 175 (2013)

〔産業財産権〕
○出願状況（計　0件）
○取得状況（計　0件）

〔その他〕
ホームページ等　なし

６．研究組織
(1)研究代表者
大島弥生（Yayoi Oshima）東京海洋大学・海洋科学技術研究科
研究者番号：90293092

(2)研究分担者
佐藤勢紀子（Sekiko Sato）東北大学・高等教育開発推進センター
研究者番号：20205925
因京子（Kyoko Chinami）日本赤十字九州国際看護大学・看護学部
研究者番号：60217239
山路奈保子（Naoko Yamaji）室蘭工業大学・工学研究科
研究者番号：40588703
山本富美子（Fumiko Yamamoto）武蔵野大学・グローバルコミュニケーション学部
研究者番号：50283409
佐々木泰子（Yasuko Sasaki）人間文化創成科学研究科
研究者番号：20251689

(3)連携研究者　なし

(4)研究協力者　＊（　）内所属
アプドゥハン恭子（九州工業大学）
清水まさ子（国際交流基金）
張瑜珊（新生医護専門学校）
トンプソン美恵子（早稲田大学）
二通信子（室蘭工業大学）
李セロン（室蘭工業大学）